

寒さも一段と強まり、今年も残りわずかとなりました。園庭では寒さに負けず元気に走り回り、室内では色々な役柄に憧れをもちながらごっこあそびに夢中な子どもたちです。子どもたちの興味に寄り添いながら、楽しい時間をともに過ごしていきたいと思います。



たまごをパカッ!

これはソーダあじのケーキ

ありがとうございます〜♪

イチゴのケーキですね

パク!
おいしい♪

いくらですかー

ごっこあそびが楽しい理由

子どもはごっこあそびのなかで、お母さんになったり、運転手さんになったり、テレビのヒーローやヒロインになったりします。いずれも子どもにとって「なりたい」と思う憧れのものであるという点が共通しており、「なりたいものになれる」ことが楽しいあそびだと言えます。

「なりたいものになれる」楽しさにはいろいろな要素が含まれています。それは、①先生、お医者さんなど「役になる楽しさ」②注射をする、たこ焼きを焼くなど「行為をする楽しさ」、③フライパンなどの「道具を使う楽しさ」、④葉っぱをお皿、園庭を教室に「見立てる楽しさ」、⑤友だちと先生と「一緒にする楽しさ」です。つまりごっこあそびには人物、行為、道具、ものや場所の設定、他者という多様な要素が含まれており、まさに楽しさの複合体だといえます。

ごっこあそびは発達にとって大きな意義をもつあそびです。想像する力は生活現実とは違う世界を子どもたちにもたらしめます。ごっこあそびの中ではお母さんやお店屋さんなど、現実には縛られることなくいろいろなものになって現実から解放された世界、うそこの世界をもつことができます。他者と共有の世界をもち、やり取りを楽しむことでことばの力やかかわりの力が育ちます。ことばを媒介にして他者とイメージを共有する楽しさを子どもに与えてくれます。また、ぶつかりあいも他者をくぐって自分をつくっていくという意味で、子どもにとって自我の形成へとつながる大切なことでもあるのです。子どもは経験をもとにその役をイメージし、そのイメージにふさわしい行動をとろうとします。この経験が、行動の見通し、自己コントロール、意志力を育てるのです。

著書:『乳児期の発達と生活・あそび』 著者:長瀬美子 出版社:ちいさなななま社 より引用

子どものイメージを引きだしたり、それを具体化するような道具や環境の整備をしながら、楽しいやりとりを広げる援助をしていきたいと思います。

1月のねらい

- ・生活リズムを整えながら、寒い冬を元気に過ごせるようにする。
- ・保育者と友だちと一緒に正月あそび、伝承あそび、ごっこあそびを楽しむ。
- ・雪や氷などの冬の自然に触れたり、からだを動かしたりして遊ぶ。
- ・自分の思いや経験したことを自分なりの言葉で表し、保育者や友だちと会話を楽しむ。